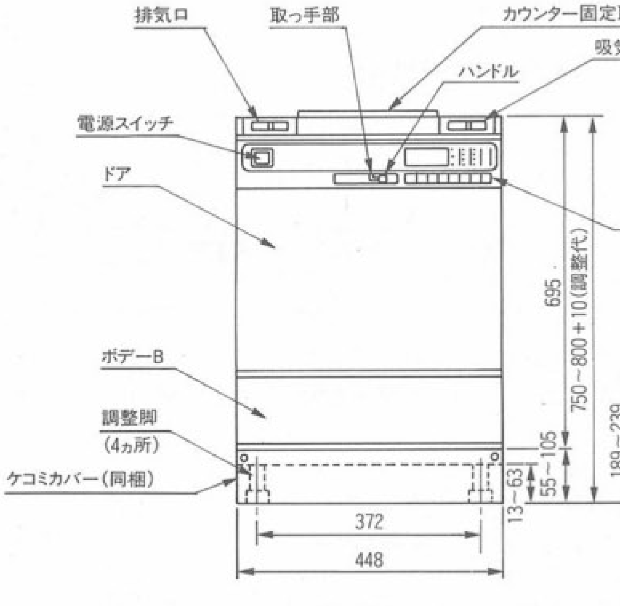
食器洗い乾燥機 NP-5720BW 据付工事説明書

200ボルト仕様

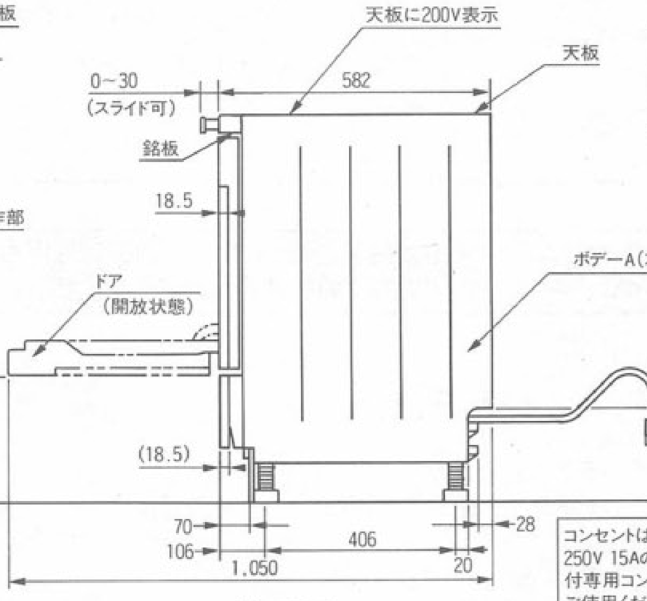
工事をされる方へのお願い

- 本機は建築基準法に基づく、排水管接続直結タイプです。
- 工事終了後、[工事後の点検]のチェックリストにもとづいて必ず再確認を行ってください。
- この説明書は工事完了後、お客さまへお渡しください。
- 据付け工事に関して不明な点がありましたら事業部にご相談ください。

1 名称及び寸法図（単位：mm）



正面図 （図1）

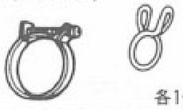
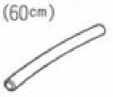
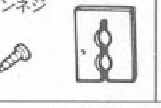


コンセントは同梱の250V 15Aの接地極付専用コンセントをご使用ください。

側面図 （図2）

2 付属品の確認

●工事を始める前に、付属品の有無を確認してください。

付属品	ご使用時に必要な付属品	据付け工事に必要な付属品					
	●専用洗剤 計量スプーンつき (100g)	●ホースバンド  各1個	●排水ホース (60cm) 	●ホーススプリング	●脚調整ピン	●ホースホルダー ●タッピンネジ  各1個	●コンセント (1個)
	●乾燥仕上げ剤 (50mℓ)	●転倒防止金具 (各1個) ●ボルト 2本 ●タッピンネジ2本	●ケコミカバー H:850mm用 H:800mm用 各1枚	●面材取り付け金具 A2個 B左右各1個	●タッピンネジ 12本	●キャップ 2個	

3 設置前のご注意

●本機は200V仕様です。

1. 電源の確認

■工事は全て電気設備技術基準に準じて行ってください。

- 電源回路は交流単相200V、15Aの専用回路が必要です。
- 本体を設置する場所の背壁に、給・排水管工事部分を避けた位置（図３－１）に埋込みボックスを設け、これに電源電線、アース線を配線しておいてください。
- コンセントは同梱している250V、15Aの接地極付専用コンセントを使用してください。
- 本体の電源（電圧、周波数）表示は銘板に示しています。（図2）
- アース工事は必ず行ってください。

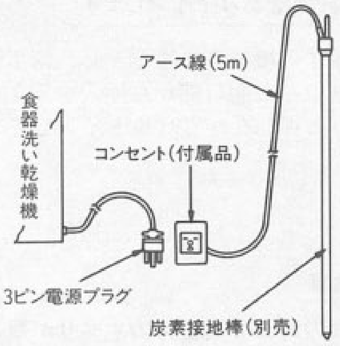
（図3-1）

配管工事は全て水道法、建築基準法、貴都市の条件・規定に準じて行ってください。
製品の機能が十分発揮されるように、この据付工事説明書の内容にそって正しく取りつけてください。

松下電器産業株式会社　洗濯機事業部
〒561 大阪府豊中市神州町1番2号
電話　（大阪06）331－0051番(大代表)

2.アースについて

- 炭素接地棒(別売：ANP3C－160)を使用される場合、アース工事は必ずお買い上げの販売店か電気工事店にご依頼ください。
  (電気工事士の有資格者が第3種接地工事をするよう法令で定められています。)
- ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には絶対に接続しないでください。(法令等で禁止されています。)
- 設置場所の変更やご転居の際には、再度アースの取り付けをしてください。
  (アース工事は有料ですのでご了承ください。)



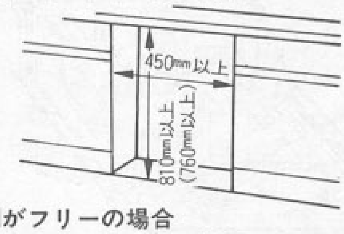
(炭素接地棒を使用される場合)　(図3-2)

3.設置場所の確認

1.ビルトインスペースの確認

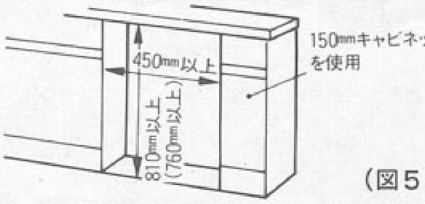
(注)下図(　)内寸法はキッチン高さ800㎜の場合を示す。

●中間にビルトインする場合



(図4)

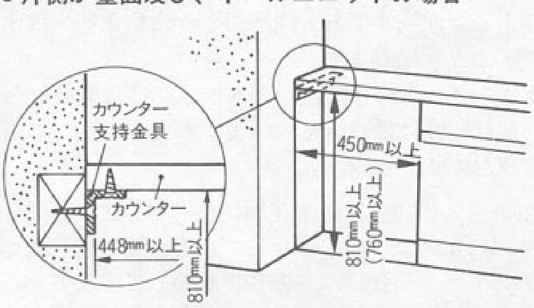
●片側がフリーの場合



(図5)

※片側がフリーの場合、幅150㎜キャビネット等を使用して、カウンターを支え、食器洗い乾燥機をビルトインする等の処置を施してください。

●片側が壁面及び、トールユニットの場合

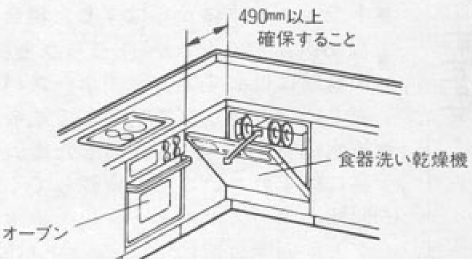


(図6)

※カウンター支持金具は別売補強部材(N-L2)又は市販のL金具をご使用ください。
※カウンター支持金具を固定する場合、図6に示す寸法を必ず確保してください。

ご注意

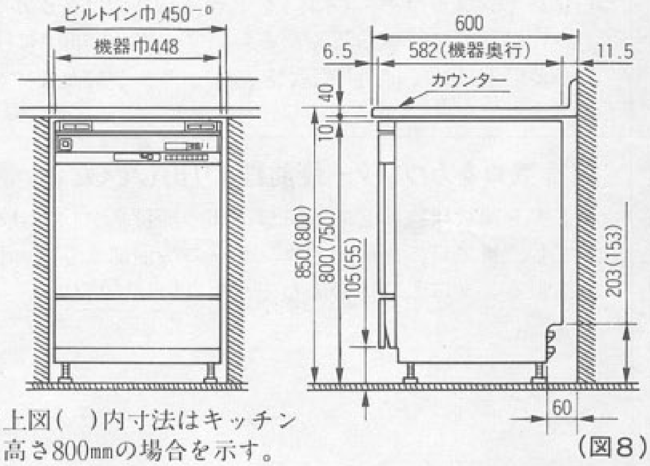
- ビルトイン型ガス機器等と並べて食器洗い乾燥機を設置しますと、カウンター上に荷重をかけた時、カウンターがたわむことがありますので、カウンターの補強処置を施してください。
- 流し台がL型配列の場合、食器洗い乾燥機をコーナー部に設置すると、オーブン等によっては、本機のドアを開閉する際にオーブン等の取手部に当ったり、故障修理の際に本機が引き出せない場合がありますのでご注意ください。



(図7)

2.工事の前に

■この工事説明は、右図のキッチン寸法を標準として算出しています。したがってキッチンの寸法が変わる場合は右図を参照して寸法調整をしてください。
カウンター下面と食洗本体上面の隙間はビルトイン作業性のため10㎜としています。外観上不都合の場合、食洗本体高さを調整してください。ただし隙間を小さくしすぎるとビルトイン作業が困難となりますので注意してください。



(注)上図(　)内寸法はキッチン高さ800㎜の場合を示す。

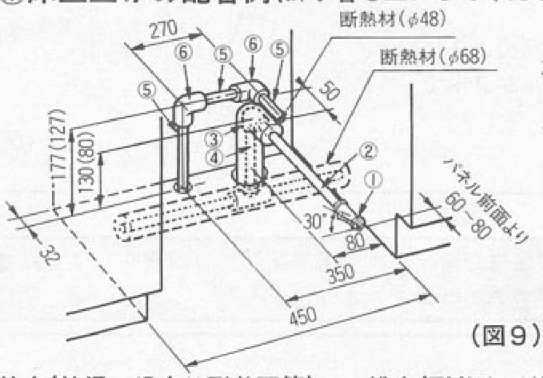
(図8)

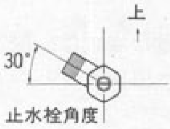
4. 配管工事の確認

1. 給水・給湯工事、排水工事例

■本機は配管直結タイプですので設計及び施工工事の段階で給・排水の位置決めは正確に行ってください。
- 給水管は硬質塩化ビニルライニング鋼管を使用してください。
- 配管工事が下図の寸法になっているか確認してください。(　)内寸法はキッチン高さ800㎜の場合。
- 排水管は直接下水道に接続しないでください。
- 排水配管は呼び径20以上のものを使用してください。かつ曲折部は90°ベンド、45°ベンドを使用してください。
- 給水、排水配管の端面のバリのないよう処理してください。かつ管内に残っている異物(切り粉など)を完全に取り除いてください。配管つまりによる故障の原因となります。
- 排水本管に至るまでの接続部品(図示していない)も耐熱塩化ビニル管を使用してください。
- 配管用接着剤は耐熱用を使用してください。
- 〔図9〕、〔図11〕、〔図12〕の場合、ドライバー用アングル型止水栓を必ず取りつけてください。(止水栓は閉じた状態にしておいてください。)

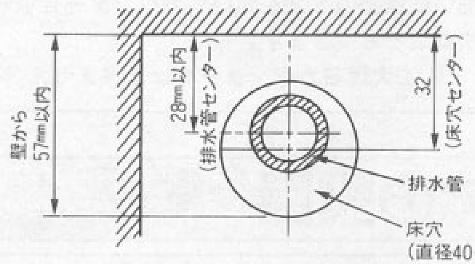
①床立上げの配管例(排水管を上にしてください)





(図9)

(上から見た床穴、排水管の位置)



(図10)

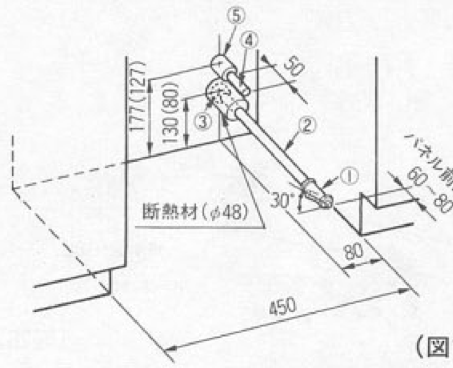
給水(給湯の場合は耐熱配管)
①ドライバー用アングル型止水栓
②硬質塩化ビニルライニング鋼管
③Rc½エルボ
④硬質塩化ビニルライニング鋼管
(断熱材巻付けφ48)

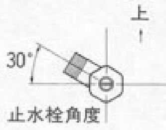
排水(耐熱塩ビ使用のこと)
⑤HT20相当品
⑥エルボ

- 排水管⑤は図10のように、床穴のセンターに対して奥に寄るように立上げてください。

※排水管⑤の長さ50㎜は、キッチン奥行L＝60基準です。
キッチン奥行が長い場合は、延長してください。

②壁出しの配管例(排水管を上にしてください)





(図11)

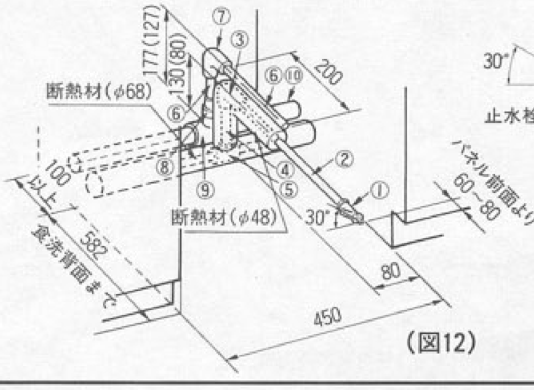
給水(給湯の場合は耐熱配管)
①ドライバー用アングル型止水栓
②硬質塩化ビニルライニング鋼管
③Rc½ソケット
(断熱材巻付けφ48)

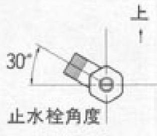
排水(耐熱塩ビ使用のこと)
④HT20相当品
⑤ソケット

※排水管④の長さ50㎜は、キッチン奥行L＝60基準です。
キッチン奥行が長い場合は、延長してください。

③床ころがしの配管例(排水管を上にしてください)

〈注〉キッチン奥行L＝75又は水切りによって壁面と食器洗い乾燥機背面との距離に余裕がある場合のみ可能です。





(図12)

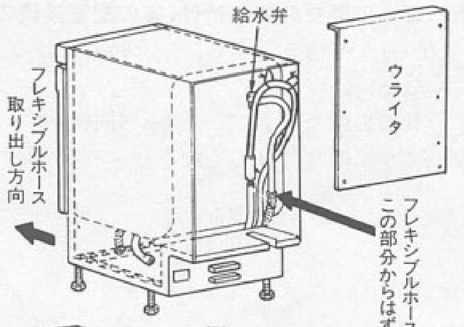
給水(給湯の場合は耐熱配管)
①ドライバー用アングル型止水栓
②硬質塩化ビニルライニング鋼管
③Rc½エルボ
④硬質塩化ビニルライニング鋼管
⑤チーズ
(断熱材巻付けφ48、φ68)

排水(耐熱塩ビ使用のこと)
⑥HT20相当品
⑦エルボ
⑧径違いソケット(40×20)
⑨チーズ
⑩VP40

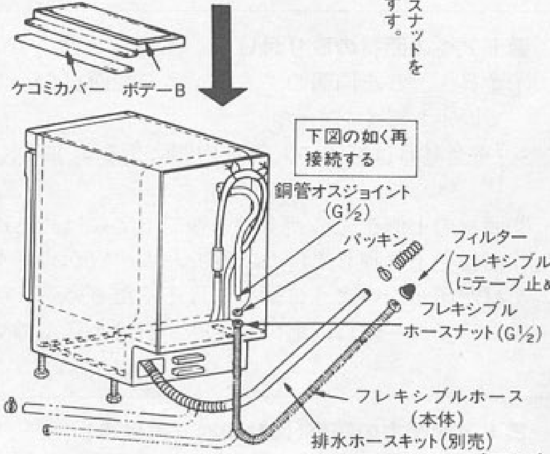
4. 配管工事の確認

④後面左右引き出しでの配管例

〈注〉①～③の配管例が困難な場合は図13・14の要領で機体内配管を変更して後面左右引き出しでの対応をお願いします。



(図13)



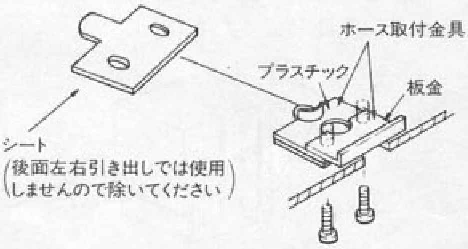
(図14)

フレキシブルホースの接続

①図30の止め金具とホース束ねを外し、フレキシブルホース(本体) をフリーにしてください。
②本体のウライタを外してください。(図13)
③図13の要領でフレキシブルホースを前方より引き出し、図14の要領で後面左右引き出し配管に切替えてください。
この時本体の給水弁に無理な力を加えないでください。
④図15のホース取付金具を台枠から外し、フレキシブルホースを図16のように台枠の切り欠き部の入口にセットし、切り欠き部の奥はテープ等でふさいでください。(図16)
⑤ホース取付金具２ヶでフレキシブルホースを図16から図17のように台枠にしっかりと固定してください。
⑥ウライタを元どうりに取り付けてください。

排水ホースの接続

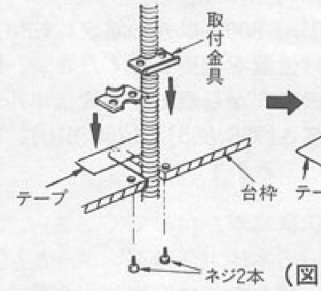
①同梱の排水ホースでは長さが足りませんので別売の排水ホースキット(ANP211-1550)を準備して下さい。
②7ページの給･排水ホースの接続1-①～④の手順で、使用する排水ホース(同梱)を、別売の排水ホースに交換して、同じ手順で配管を行ってください。



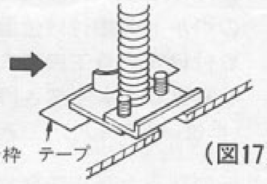
(図15)

ご注意

- 本体をビルトインした後、排水ホースを事前配管された排水管に接続する際、長すぎない様に切り取る等の長さ調整を行ったうえ、ホーススプリング(別売)で曲がり部を支持してください。(図14)
- ホースホルダーの取り付けを、７ページの給・排水ホースの接続1-⑤と同様に行ってください。
ただし、穴が１ヵ所開放状態になりますので、テープ等で目張りしてください。
- フレキシブルホースの曲げＲは、Ｒ25以上としてください。



(図16)



(図17)

2. 給湯接続の場合の給湯機の確認

- 給湯接続の場合は石油給湯機、中型以上の深夜電力利用温水器、10号以上の先止め式給湯機等で70℃以下の温度に調整可能な機器に接続してください。

ご注意

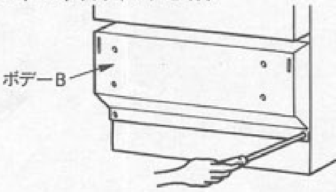
- 小型深夜電力利用温水器、元止め式給湯機からの配管は絶対しないでください。
- この食器洗い乾燥機の水道水圧は0.03～1MPa｛0.3～10.0kgf/㎠｝の範囲でご使用ください。
- 特に高水圧地域では給湯機に所定の減圧弁を必ず取り付けてください。

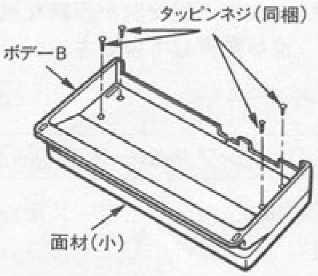
5. 面材(別売)の取り付けとドア開閉力の調整

■ボデーBへの面材の取り付け(後の配管接続のためボデーBは外したままにしておいてください)

①ネジ(左右) 2ヶ所をはずし、少し持ち上げるようにしてはずしてください。

②ボデーBの裏側からタッピンネジ(同梱) 4本で面材(小)を傾かないように取り付けてください。





■ドアへの面材の取り付け

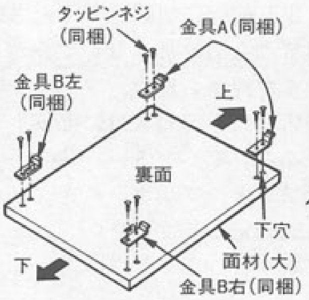
①金具A、Bを同梱のタッピンネジで面材(大)の下穴に合わせて固定してください。

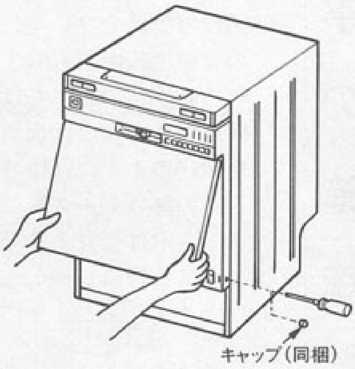
(※金具Bは刻印の矢印が内側になるように取り付けてください。)

②面材の上側を先に、下側を後でドアにはめ込んでください。

③面材を上に押し上げた状態で左右の穴から⊕ドライバーで面材が傾かないように締め付けてください。

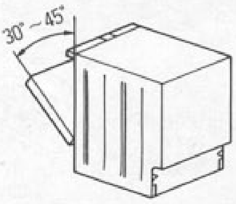
④ドライバー穴に同梱のキャップをはめ込んでください。

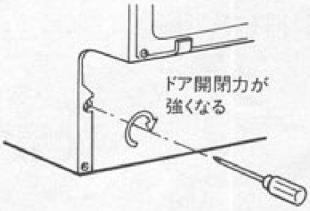




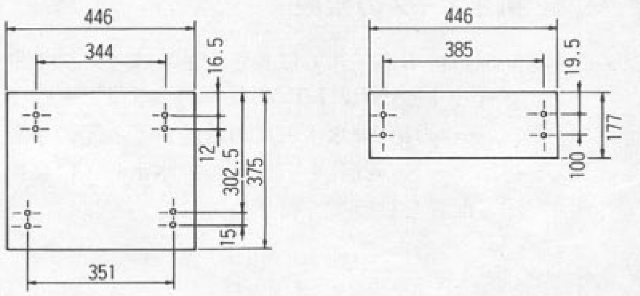
■ドア開閉力の調整(面材の取り付け後)

製品後面下部の穴(左右2ヶ所)より⊕ドライバーを差し込んで、面材の重さに応じてドアの開閉力を調整してください。
なお、このときドアを30°～45°に開いた状態でドアがとまる程度に調整し、ドアの開閉時に急激に開いたり、閉じたりしないよう十分に確認してください。





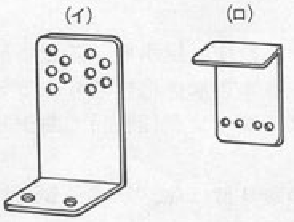
(参考)面材寸法とネジ下穴寸法



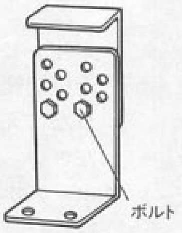
6. 転倒防止金具取りつけと本体の高さ調整

①転倒防止金具は図18に示す(イ)、(ロ)の2つの金具(同梱)を使用し、図19のように組み合わせ、(ロ)の金具を(イ)の金具の最下段の穴に同梱のボルト(2本)で固定してください。本体高さ750㎜、800㎜の場合の転倒防止に対応できます。

● **本体の高さが750㎜、800㎜以外の場合は転倒防止金具(図19)のボルトの締付け位置を変更してください。図18の金具(イ)の取付け穴の最下段の穴から最上段の穴迄ボルトの締付け位置を変更して本体高さ〔755、805〕、〔760、810〕、〔765、－〕、〔770〕(単位㎜)にも対応できます。**

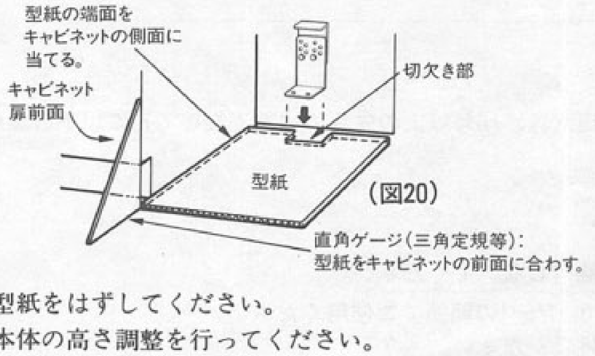


(図18)

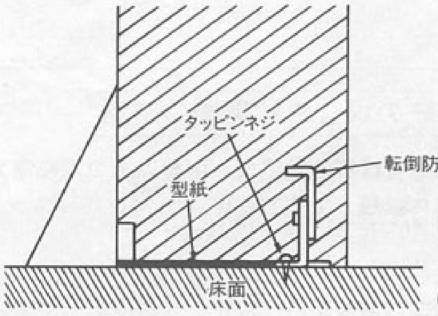


(図19)

②転倒防止金具を床面に取り付けてください。型紙(梱包材料として使用されている本体上部のダンボール)を図20、図21のように床面に敷き、切欠き部に転倒防止金具を置いて同梱のタッピンネジ(2本)で取り付けてください。



(図20)



(図21)

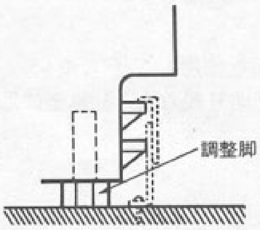
③型紙をはずしてください。

④本体の高さ調整を行ってください。

6. 転倒防止金具取りつけと本体の高さ調整

キッチンの高さが800㎜の場合

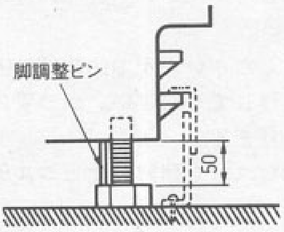
本体下部の調整脚(４本)を図22のようにいっぱい締め込んでください。



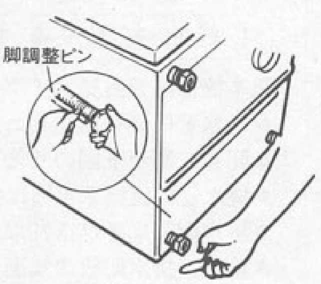
(図22)

キッチンの高さが850㎜の場合

同梱の脚調整ピンを使って調整脚の高さを設定してください。



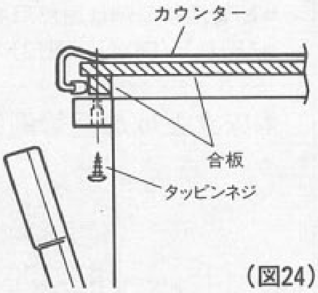
(図23)



調整脚の高さ調整

ご注意

●コンクリート床面など転倒防止金具の取り付けが困難な場合は、図24のように食器洗い乾燥機のドアを開いてカウンター合板部分へ直にタッピンネジ２本で固定することもできます。
(但し、人工大理石カウンター等は出来ません。)



(図24)

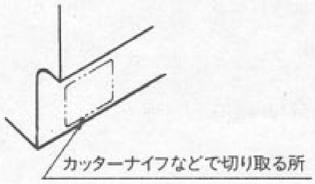
4 本体の設置

ご注意　**本体を設置する前に必ず面材を取り付けてドア開閉力を調整をしてください**
本体の設置後にドア開閉力の調整はできません。

1. 本体のビルトイン

1.本体後面下部に配管用の穴を設けます。

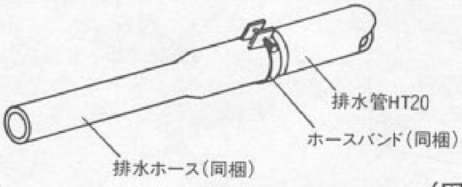
本体後面下部の開口予定部分をカッターナイフなどで切り取ってください。**なお、開口部のバリ、エッジ等に十分ご注意ください。**(図25)



(図25)

2. 排水ホースを排水管に接続します。

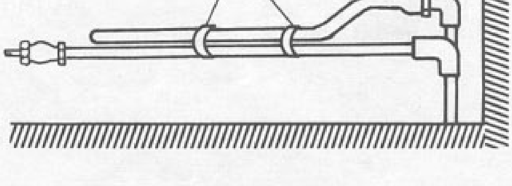
排水ホース(同梱)を排水管ＨＴ20に十分に挿入し、ホースバンド(同梱)で締め付けてください。



(図26)

3.配管を仮り止めします。

ビルトイン作業時に排水ホースを通しやすいようにするため給水管へ図27のようにビニールテープ等でとめてください。



(図27)

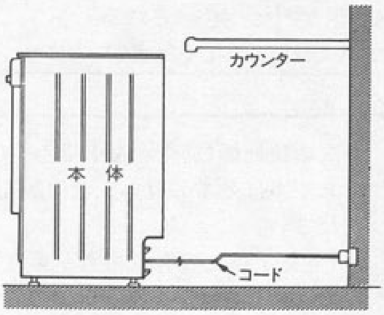
1. 本体のビルトイン

4. 電源コードを接続する。

電圧が200Vであることを確認してから専用コンセントに電源プラグを差し込んでください。

5. 本体をビルトインします。

- 隣接する機器等に注意をし、給水管、排水ホースの先を図25で切り取った開口部から挿入するようにして、本体の下方をゆっくりと押しながらビルトインしてください。



(図28)

ご注意

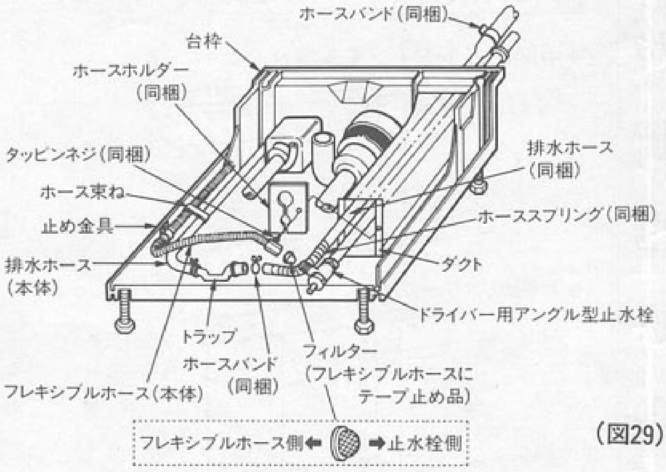
- **床面の凹凸で調整脚のすべりが悪くスムーズにビルトインができないことがあります。予め確認してください。**
- **ビルトイン作業のとき排水ホース、給水管、電源コードにキズや折れ曲がり等のないようにしてください。**
- **図25で切り取った開口部のバリ、エッジに十分注意してください。**

2. 給・排水ホースの接続

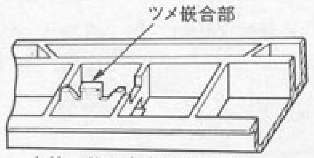
1. 本体内部での給・排水ホースの接続

- ビルトインが完了すると図29のように給水管・排水ホースがダクトより突出します。
- 排水ホース(本体)を接続したトラップは、事前に台枠のツメ嵌合部(図30)にはめ込んでいますので、はずれていないことを確認してください。

①排水ホース(同梱)は若干長めになっています。排水ホースが折れないように、トラップに合わせた時、排水ホースが長すぎる場合はカットして調整してください。
②排水ホースにホーススプリング(同梱)を挿入したのち、ホースバンド(同梱)をはめます。(法令上必要)
③排水ホース(同梱)をトラップのストッパーに当たるまで挿入してください。
④ホーススプリング(同梱)を排水ホース(同梱)の曲がり部にセットします。



(図29)



台枠の前方中央の詳細図

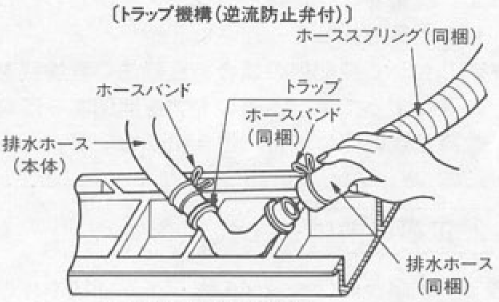
(図30)

ご注意

- **トラップを本体からはずした場合は、かならず元の位置にはめ込んでください。(トラップ機構として法令上必要です)**
- **接続部には必ず図に示すホースバンド(同梱)をはめてください。(トラップ機構として法令上必要です)**
- **排水ホース(同梱)を接続した後、台枠にはまり込んで容易にはずれないことを確認してください。**

⑤同梱のホースホルダーを給・排水ホースにはめ込み、ダクト前面開口部にタッピンネジ(同梱)で取り付けてください。
⑥フレキシブルホース(本体)をドライバー用アングル型止水栓に確実に接続してください。(フィルターの向きに注意)
※必要以上に強く締付けますと、パッキンが破れますのでご注意ください。

〔トラップ機構(逆流防止弁付)〕



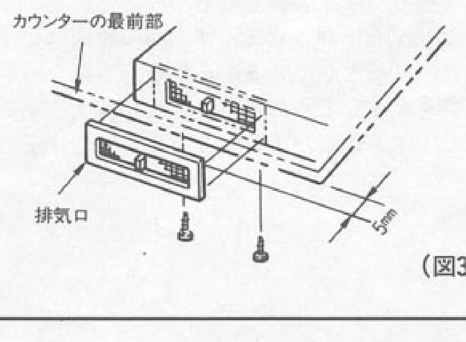
台枠の前方中央の詳細図

(図31)

3. 排気口の調整

■排気口をカウンター最前部より出してください。

- ドアを開放状態にして排気口下部の締付ネジ(2本)をはずし、排気口の前面がカウンターの最前部より5㎜程度出張るようにして締め直してください。(図32)



(図32)

5 工事後の点検 ●チェックリスト

点	検	点検内容	参照項目	チェック
機器及びその周辺	電源(電圧・周波数)	銘板表示と使用電源が適合していますか。	3-1	
	ドアの開閉	他の機器への障害はありませんか。ドア開閉力の調整をしましたか。	3-3, 3-5	
	排気口の調整	アンダーカウンターにビルトインする場合、カウンターの最前部より5㎜程度出ていますか。	4-3	
給水・排水接続	給湯機との接続の場合	指定する給湯機に接続されていますか。	3-4	
	フィルター	フレキシブルホースと止水栓との接続部にフィルターを挿入しましたか。	4-2	
	排水ホース	排水管との接続部は確実に接続したことを確認しましたか。また押しつぶされたり、無理に折れ曲がったりしていませんか。	4-2	
電気接続		電源コンセントは専用回路で、電源プラグは250V 15Aの接地極付専用コンセントに接続しましたか。	3-1	
		アース工事は行いましたか。	3-2	

6 試運転

●取扱説明書にもとづき、試運転を行ってください。なお以下の手順で試運転を行うと短時間で確認することができます。

①止水栓を開きます。
②ドアを閉じます。(ハンドルを「閉」の位置までいっぱいに動かしてください。)
③「電源スイッチ」を「入」にします。
④「コースセレクト」ボタンを押して「予洗い」コースを選んでください。
⑤「スタート/一時停止」ボタンを押してください。(「予洗い」コースが開始し、約9分間で終了します。)
⑥次の確認を行ってください。
●一定量の水が入ればシャワーを噴射しながら庫内のノズルが回転します。
(噴射音:バシャバシャ音が聞かれるか確認してください。)
●運転が終了しますとブザーが鳴りますので、終了後「電源スイッチ」を「切」にしてドアを開けてください。(庫内の水が排水されていることを確認してください。また運転中給排水接続部からの水もれがないことを十分確認してください。)

※100V電源でも操作部のランプは発光しますが、正常な動作はしません。機器の専用回路のブレーカ端子電圧を確認してください。

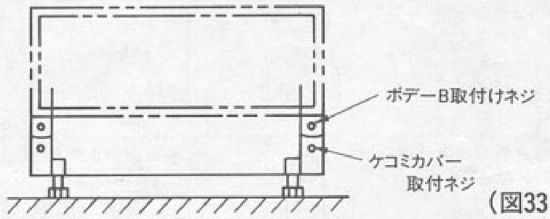
7 ボデーBの取り付け

■ケコミカバー、ボデーBを取り付けてください。

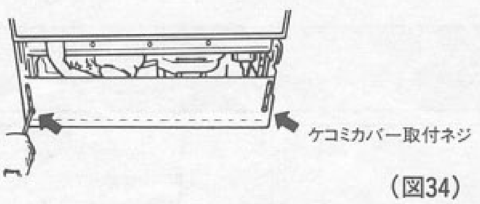
●図33のケコミカバー取付けネジ2本(左右)をはずしてケコミカバー(同梱)を床下まで下げてしめつけてください。(図34)

ケコミカバー(小:800用 / 大:850用(860用に調節可能))

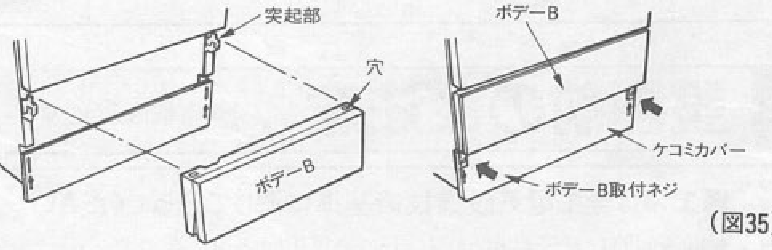
●ボデーBは上部の穴を本体の突起部にはめ込んでから下部をネジ止め(2本)してください。(図35)



(図33)



(図34)



(図35)

8 お客様への取扱説明

①取扱説明書によって製品の取扱いを説明してください。
②保証書に必要事項を記入のうえ、保管のお願いをしてください。